



八鹿青溪



貫徹 慎独 創造

養父市立八鹿青溪中学校 校報
(令和5年6月16日) 第7号

学校教育目標「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」

第2回全校集会

6月5日(月)、今年度2回目の全校集会を行いました。

1. 教育実習生紹介(3名)
2. 校長より(要旨)

「今日の全校集会には3年生がいません。3年生は5月31日から6月2日の予定で修学旅行に出かけましたが、台風2号に伴う大雨の影響により6月3日の土曜日まで旅行が延びてしまいました。したがって、本日は代休です。さて、修学旅行の1日目はディズニーランドで楽しく過ごしました。私もいくつかの乗り物に乗りました。とは言っても高い所から急速に滑り落ちるタイプの乗り物は怖いので、バス、船、汽車などでゆっくりと楽しみました。2日目は劇団四季。タイトルは、「アナと雪の女王」で、実に素晴らしい舞台を見させてもらいました。3日目は国会議事堂。偶然、小泉進次郎さんと出会い、小泉さんは本校の生徒に対して『おはようございます!』ととても大きな声であいさつをしてくれました。その後浅草を散策し、14:00過ぎの新幹線で兵庫県に向かって出発しました。ところが、大雨により静岡県の三島駅で新幹線が緊急停止。その後、新幹線が東京に引き返して列車ホテルで一晩を過ごし、翌日は昼まで新幹線の復旧を待ち、結局はまる一日遅れて八鹿に戻ってきたというわけです。その間、たいへんな苦しい時間を過ごしましたが、本校の3年生は不満を口にすることなく、最後まで頑張ってくれました。とても立派だったと思います。3年生へ「おつかれさまでした!」と声をかけてあげてください。いっぽう、2年生は『トライやる・ウィーク』を頑張りました。私も少し見て回りましたが、一生懸命取り組んでいることが分かりました。1年生は『わくわくオーケストラ教室』に出かけましたし、人と自然の博物館でも良い見学ができたと聞いています。どの学年もよく頑張った1週間でした。」



八鹿青溪校区小中一貫教育

八鹿青溪中学校区では、小学校と中学校が共通の学校目標(「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」)を掲げて教育活動を展開する「八鹿青溪校区小中一貫教育」を行っているということは校報第5号でお伝えしたところですが、その取組の一環として、6月5日(月)に中学1年生の授業を各小学校の先生方に参観していただく小・中連絡会を開催しました。生徒たちは久しぶりに出会う小学校の先生方に大喜びで、張り切って授業を受けていたように思います。授業参観後は、中学校に入学してからの様子を小学校の先生方にお話ししたり、小学校時代の様子を聞かせていただいたりする懇談会を行って相互理解を深めました。



「学力」とはどうか・・・？

学校は、子どもたちの学力向上をめざして日々授業を行っていますが、この「学力」というのは、いったいどういう力のことを言うのでしょうか？日本では、次の3つを“学力”として学校教育法という法律で規定しています。

- ①基礎的・基本的な知識および技能
- ②思考力・判断力・表現力
- ③主体的に学習に取り組む態度

以上を、「学力の3要素」とも呼び、教師たちはこの3つを意識して授業を展開しています。まず①ですが、これは「 $y=ax+b$ 」「I am a boy」「徳川家康が江戸幕府を開く」「 H_2O 」などの知識や理科の実験、音楽の歌唱、保健体育のマット運動等の技能を指します。どちらかと言えば、“インプット”する学習で得る力というイメージですね。いっぽう②は、①を活用してさらに深く考えたり、どうしようか判断したり、自らの考えを表現したりする力を指します。どちらかと言えば、“アウトプット”する学習で得る力のイメージということになりますね。そして、③は、①や②を得るために粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整したりする態度を指します。①②③は常に関連して成長しますので、いずれかの力だけが突出するということはありません。

さて、今年度の八鹿青溪中学校では「指導と評価の一体化のさらなる深化」をテーマにして授業づくりに取り組んでいます。これは決して定期テストだけで学習の成果を評価するのではなく、日頃の授業の中で①②③を見取って評価していく、そして、その結果を生徒にフィードバックするだけではなく、教師自らの授業を改善していくための材料にするということをめざしているのです。授業→評価→授業→評価→授業・・・のイメージですね。この評価の積み重ねが学期末の「評定」につながり、通知表によって保護者の皆様のもとへ届きます。いっぽう、教師は「評価」や「評定」を2学期以降の授業改善のために活用します。

YABUスクールチャレンジ事業

少しさかのぼりますが、5月24日（水）に、兵庫教育大学の「道徳教育アカデミー」から講師をお招きして「～評価を考え、授業を考える～」というテーマで道徳科の授業づくりに関する職員研修を実施しました。この研修は、「YABUスクールチャレンジ事業」（養父市教育委員会が予算化）の一環であり、養父市内各小中学校がそれぞれの学校の課題に応じて取り組むものとなっています。八鹿青溪中学校では昨年度より道徳科の評価を毎学期行うことになったこともあり、「道徳科について深く学びたい」という教員の希望によってこの内容に決定しました。

【今回の研修で学んだこと】

- ①生徒の「心の動き」を意識した授業づくりをする。
- ②生徒の道徳性そのものではなく、学習の状況や道徳性につながる成長の部分を評価する。

